

**『委ねられた良いもの』 (要旨)**  
**聖書箇所：Ⅱテモテ 1 章 1 3 節～1 4 節**

**【1】健全なことば**

使徒パウロは、愛弟子のテモテに「私から聞いた健全なことばを手本にきなさい」(13)と勧めました。この「健全」と訳された言葉には「誤りのない」、「正しい」という意味が含まれています(参照:BDAG)。パウロは当時のエペソの教会に誤った教え(「俗悪な無駄話」や「知識」)が持ち込まれる危険性を意識し、「健全なことば」を手本にするように勧めたのでしょう。私たちは「誤った教え」に対して自分の知識や弁証によって何とか対処しようと考えやすいものです。

しかしパウロはテモテに幼い頃から学び、親しんで来た「健全な教え」や「健全なことば」(Ⅰテモテ 1:10,Ⅱテモテ 4:3,テス 1:9,2:1)に留まることの大切さを伝えました。

テモテが祖母ロイス、母ユニケから継承した信仰は目新しく刺激的な「知識」(グノーシス)とは程遠かったことでしょう。しかしテモテが信仰を受け継いだのも祖母と母の普段の姿に真実な信仰者の姿勢を見ていたからなのでしょう。パウロはそのようにして信仰が生まれたテモテと出会い(使徒 16:1-2)、彼を指導し、やがて愛弟子のテモテに自分の働きを委ねたのです。

**【2】委ねられた良いもの**

「委ねられた良いもの」はもともと「銀行に大切に保管を願う宝物」を意味する言葉でした。

さてここでパウロが言う「委ねられた良いもの」とは「健全なことば」(同 13)であり福音を指します。この福音は、主イエス様からパウロへ、使徒パウロから弟子のテモテへ、そしてテモテから信頼できる人々へと委ねられていきました。

ところでパウロはこの「委ねられた良いもの」を、自分の知恵や力によって守るよう、とは言いませんでした。イエスを主と告白する者のうちに宿る「聖霊」によって守るようにと勧めたのです。

▷私たちが自分の弱さや限界を認める時、「聖霊なる神様、私を助けてください」という祈りが生まれるのではないのでしょうか。

**【3】『霊の火が吹く山』から『緑園の丘』へ**

横浜緑園キリスト教会は日本福音キリスト教会連合(以下 JECA)に所属しています。そのルーツはリベラ・ミッション(以下 LM)の日本宣教に遡ることができます。

LM は日本宣教再開(1951)を経て、1964 年に当教会(前二俣川キリスト教会)を開拓しました(20 番目)。その後 LM の所属教会は「リベラ・キリスト連合」(1979.2)を設立しました。その 13 年後、同連合は解散し JECA が設立(1992.4)されました。

さて LM(1899 年設立、創始者ハイリッヒ・ケルパー)の歴史を語る上で欠かせないのが、デアエニッセル(奉仕女)の指導者・管理人のリナ・シュタルです。彼女は自分の部屋の窓から見える丘陵(LM 本拠地)を「『霊の火が吹く山』としてください」と祈り始めたと言います。1891 年から 1902 年まで 11 年間「主が祈りを聞かれることを堅く信じ続けながら、しかし、主がどのように、何をなされるかは知らないまま、祈り続け」ました。彼女は時至って祈りの答えを知りました。ドイツ・ハヴルで産声を上げたミッション(1899)が、彼女が祈り続けた丘陵を本拠地に世界宣教を開始することになったのです。リナは明確な宣教計画があつて祈り始めたものではありませんでした。「不思議な祈りの動機が何であったかは、今に至るまで誰にも分からない」のだと言います。ですが、素朴で忠実な祈りが聞かれ『霊の火を吹く山』が誕生したのです。その後福音の火は『緑園の丘』まで届けられたのです。(参照:『宣教再開 40 周年記念誌』、『JECA 設立への歩み』、『火を吹く山』)

私たちの教会のルーツは、そうした素朴で熱心な祈りからスタートしています。▷私たちに委ねられた福音の「火」を絶やすことなく、次の世代に引き継ぐことができますように。

